

研究代表者 所属・職：スポーツ科学部・講師

氏 名：水野 和代

研究課題名：大学のオープンカレッジ・公開講座におけるインクルーシブな生涯学習プログラムの開発

研究の概要

近年、共生社会の実現に向けて、大学における学校卒業後の知的障害者の生涯学習を支援する取組が展開されている。しかしながら、一部の大学のオープンカレッジ・公開講座等しか開講されておらず、大学における知的障害者を対象とした生涯学習プログラムが著しく少ない。誰もが、障害の有無にかかわらず共に学び、生きる共生社会の実現からは乖離した状況である。

他方、米国では、大学で学ぶ知的障害者が増加しており、知的障害者と障害のない学生がともに学ぶインクルーシブな学習プログラムの研究開発が進められている。

本研究の目的は、1) 大学のオープンカレッジ・公開講座等における知的障害者を対象とした生涯学習プログラム内容、2) 米国の大学におけるインクルーシブな学習プログラム内容を精査し、差異を明らかにすることで、今後普及が望まれるインクルーシブな生涯学習プログラムを開発することである。

達成状況・成果内容

本研究では、日本の大学におけるオープンカレッジ・公開講座等の学習プログラムおよび、米国の大学における知的障害者の学習プログラムに関する資料および文献の分析・考察を行った。

調査対象は、日本については、令和4年度の文部科学省「地域における持続可能な学びの支援に関する実践研究」に採択され、障害者の生涯学習について実証的な研究開発をおこなっている静岡大学、愛媛大学、高知県立大学とし、米国については、「知的障害者のための移行と中等教育後プログラム」に参加している大学のなかで2020年度最多の46名の知的障害者が在籍しているミズーリ大学セントルイス校、38名の知的障害者が在籍しているカリフォルニア州立大学フレズノ校、20名の知的障害者が在籍しているサウスカロライナ大学とした。

研究の結果、日本の大学におけるオープンカレッジ・公開講座等の学習プログラム内容は、各大学の公開講座・オープンカレッジ等によって特色のある取り組みが展開されているが、いずれも年に数回か一定の期間に限られた取り組みであることが明らかとなった。

他方、米国の大学におけるインクルーシブな学習プログラムの内容は、いずれの大学も学問研究、社会生活と日常生活スキル、職業教育などを提供しており、大学生活全体で取り組んでいることが示された。

今後は、本研究を発展させ、その成果により、大学におけるインクルーシブな学びの場づくりの推進を目指していきたい。

本研究の成果については、2024年の日本特別ニーズ教育学会における研究発表、学会誌における論文発表を実施する予定である。

その他、2023年8月に日本特殊教育学会研究大会にて、自主シンポジウム「知的障害者の大学教育（1）－大学が果たす役割と展望－」の企画者・話題提供者として、研究発表を実施した。